学校番号	３０５

令和３年度　音楽

教科	音楽	科目	ソルフェージュ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	自主作成						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・幼児教育・初等教育・また、音楽大学への進路を考えている生徒に対して、その基礎力となる音楽理論を、年間を通して学習します。
・学習の到達度は、授業で配付するワークシートや実技テストで評価します。
・また、同時に「歌うこと」「楽器を演奏する」ことを通して、その基礎力を元に音楽の表現力を育てます。
・これらを学習が、音楽を生涯に渡って自ら楽しんでいける力をつけていきます。

2　学習の到達目標

音楽を形づくっている要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための基礎的な能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価方法	観察 ワークシート	観察 ワークシート	演奏の聴取 提出作品	観察 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	音楽の基礎理論をしろう	【音楽理論】 1.　音名と譜表 2.　音符と休符 3.　拍子 4.　音程	○			○	a:音楽や楽譜に関心をもち、音楽理論の学習に主体的に取り組もうとする。 d:　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解しながら、音楽に対する理解を深めている。	観察 ワークシート
	表現力をつけよう	【歌唱】 アカペラ Happy Birthday(混声3部) 「ありがとう」(混声6部)	○	○	○		a:曲想や歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりに関心をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、どのように歌うかについて表現する意図をもっている。 c:曲想を歌詞や楽曲の背景と関わらせて、外国語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	文化祭で発表しよう	【リズム】(創作) リズムパフォーマンス	○	○	○		a:リズムに興味を持ち、創作意欲を持って練習に主体的に取り組もうとしている。 b:ハーモニー・リズムを知覚し、それらの特質や雰囲気を感受し、演奏方法に意図をもっている。 ｃ:楽器の特徴をとらえ、読譜や演奏技術を身に付け、協力し合い創造的に表現している。	観察 演奏の聴取

後期	音楽理論	【音楽理論】 1.　音律 2.　音階と調 3.　いろいろな音階 4.　関係調 5.　移調と転調 6.　和音の種類	○			○	a:音楽や楽譜に関心をもち、音楽理論の学習に主体的に取り組もうとする。 d:　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解しながら、楽曲や演奏を解釈するための価値を考えたりして、音楽に対する理解を深めている。	観察 ワークシート
	表情豊かに演奏しよう	【器楽】ギター ペア発表 「なごり雪」	○	○	○		a:ギターの基礎的な奏法の特徴に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 b:楽器の特徴を感受しながら、ペア相手と共に表現を工夫している。 c:ギターの基礎的な演奏技能を身に付け、創造的に表している。	観察 演奏の聴取
	合唱を楽しもう	【合唱】 結(合唱コンクール課題曲)	○	○	○		a:曲想と文化的背景に関心をもち、合唱をする学習に主体的に取り組もうとしている。 b:旋律、ハーモニーを知覚し、それらの特質や雰囲気を感受し、歌い方に表現する意図をもっている。 c:曲想を歌詞の内容に関わらせ合唱する技能（発声、言葉の発音、呼吸法）を身に付け、協力し合い創造的に表している。	観察 演奏の聴取

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能　d:鑑賞の能力

※　原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野はa,b,cの３観点で、「鑑賞」の分野はa,dの２観点で評価をする。

※　年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。